

---

# 夕日坂

破駟矢理桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夕日坂

### 【Nコード】

N 6 5 7 7 P

### 【作者名】

破駆矢理桜

### 【あらすじ】

夕日によって朱に染まる坂の上に建つ街、夕日坂町。

この街で少女と少年は出会う。

少女は思う。

「私は夢いありふれた幸せに恋したんだ…。」

少年は思う。

「幸せってのは人に与えるものだとか俺は考える。」

世界でありふれた優しさに恋する少女と、その優しさを掴もうとする少年。

2人の織りなす青春をお送りする、青春恋愛物語。  
作者が学校での課題にて候補とした小説を書きなおしを行った小説  
なので短期連載としてお送り致します。

## プロローグ

夕日によって朱に染まる坂の上に建つ街、夕日坂町。  
この街で少女と少年は出会う。

少女は思う。

「私は儚いありふれた幸せに恋したんだ…。」

少年は思う。

「幸せってのは人に与えるものだとか俺は考える。」

世界でありふれた優しさに恋する少女と、その優しさを掴もうとする少年。

少女の名前は鏡月玲奈。

少年の名前は戸枝和人。

地元では有名な公立校、夕日坂第一学園に通う2人は太陽の見守る町と言われるこの町で

青春をどう過ごしていくのだろう。

## 太陽が見守る町で：玲奈

ピピピピピ。

律儀に規則正しい騒音を振り撒きながらケータイが振動する。

「むう…。」

億劫に画面を操作し、5分後にアラームをセットし直して私は微睡む。

二学期に入ってから起床時間が遅くなっている気がする。6時半に起きていたのが、今では

7時前に起きるのが日課になっている。

ピピピピピ。

やかましいアラームを消し、私はベッドから出る。

「寒っ。」

まだ10月の初めだというのに残暑というものは感じられず、朝は肌寒い。

何か着るのも面倒だし、タオルケットでいっか。

「もふ。」

タオルケットをかぶり、部屋を出た。ああ、寒い。凍え死んじやいそう…。

「いつまで寝ぼけてんだ。」

「寝ぼけてないよ、寒いんだよ。」

「だったら何か着ればいいだろう。高校生にもなってみつともないぞ玲奈<sup>れな</sup>。」

朝だけの安心させる低い声で話す私のお父さん。皆に言わせればイケメンなんだけど厳しい。

寒がつてる愛娘から防寒具であるタオルケットを剥ぐくらい厳しい。

「寒いよおおおお…」

「朝食はもうできてるぞ。今日はバジルソーセージだったな。」

ああ、お父さんの好物か。美味しいんだけど私はあまり好きじゃない

い。

「今日はもう出かけるの？」

朝スーツ姿で玄関に立つ父を見ればそう思っしかない気がする。

「ああ、一応会議だな。たく月曜の朝くらいのにびりしたいってものだよ。」

私に愚痴るお父さん。この図は如何なものか。

「そ、いつてらっしゃい。寒いよおおお…。」

「いつてきます。風邪ひかないようにな。」

手のタオルケットを私に放り投げ、お父さん扉を開け外に出た瞬間、冷たい冷気が体を撫でた。

「にやああっ！！」

急いでタオルケットをかぶり、リビングに入る。

「わああ、暖かい…。」

「おはよう、最近起きるの遅いわよ。」

父が厳しければ母が厳しくなるのは自然なのかな…。

「いや、寒いじゃん。」

「そこ、即答しない。」

そんな会話をしながら席につく。

「お父さんの大好物…。」

「結構用意したのだけどねえ…、あの人あれだけ食べて大丈夫かしら…。」

お父さんは好きな物を食べる時、吐く寸前まで手が止まらない。なのに健康体なのだから世の中不公平だ。

パリッとした皮から肉汁と一緒にバジルの香りが肉の臭さと脂つこさを中和する。

美味しいんだけど…、クセになってしまいそうだから好きじゃない。サラダとオレンジジュース、ビスケットを食べ終えて私は席を立つ。

「ごちそうさまでした。」

「はいはい、いつてらっしゃい。」

食器をキッチンに片づけたお母さんはそそくさと出かけてしまう。

近所のママ達の会合という名のお茶会だそうだ。

タオルケットをかぶりながら、私は思う。

好きな人以外に恋ができるなら、私はこんな日常に恋するんだろうな……って。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6577p/>

---

夕日坂

2010年12月31日00時37分発行